



させぼ夢大学

発行●公益社団法人 させぼ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
<https://www.yumedai.com/>
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

令和7年度
第6回

2025年 9月17日(水)

アルカスSASEBO 大ホール

開場 17:30

夢のひろば 18:00

講演 18:30(終了20:00)

No.351 <2025・9>

第6回講演会の講師は、政治ジャーナリストの青山和弘さんです。

青山さんは、千葉県流山市出身。東京大学文学部社会心理学科卒業後、1992年に日本テレビへ入社。警視庁や首相官邸を担当。その後、編成部へ異動し、報道キャスターや報道デスクを務めました。

1995年には、米国コロンビア大学東アジア研究所客員研究員として勤務。2011年、外報部ワシントン支局長となり、オバマ大統領、アメリカ大統領選挙などを取材。2016年に国会官邸キャップとなり、森友・加計学園など、様々な問題を取り扱いました。

2021年9月に独立し、政治ジャーナリストとしての活動を開始。多く



のテレビ番組出演の他、執筆や講演活動、青山学院大学客員研究員としてもご活躍です。

政治記者として、足掛け30年。羽田政権から石破政権まで16の政権に関わり、日本の政治や外交を直接取材する中で、永田町や霞が関に与野党を越えた幅広いネットワークを築かれています。

取材したことを大切にしながら、その経験と認識に基づいて、わが国に何が必要なのかを冷静に分析。様々なメディア媒体を通じて、わかりやすく解説されています。

今回は、これまでに取材した内容をもとに、テレビでは話せない政治の舞台裏をお話しいただけることでしょう。今から楽しみです！

講 師 ● 政治ジャーナリスト 青山 和弘 氏

テーマ・テレビでは話せない政治の舞台裏



次回のご案内

- と き／10月15日(水) 18:30~20:00
- 講 師／俳優 市毛 良枝氏
- テーマ／介護における自然の大切さ

●静岡県出身。文学座附属演劇研究所、俳優小劇場養成所を経て、ドラマ「冬の華」で1971年デビュー。以降、テレビ・映画・執筆・講演と幅広く活躍。40歳から始めた登山を趣味とし、キリマンジャロやヒマラヤの山々に登っている。環境問題にも関心を持ち、1998年度に環境省の環境カウンセラーに登録され、特定非営利活動法人日本トレッキング協会の理事も務めている。

9月の講演会は第3水曜日です。

青山 和弘 氏のプロフィール

●1968年、千葉県生まれ。青山学院大学客員研究員。元日本テレビ政治部次長兼解説委員。日本テレビ「news every.」のレギュラー解説の経験あり。

2021年9月に独立し、政治ジャーナリストとして活動。これまで、羽田政権から石破政権まで、16の政権を取材。与野党を問わない幅広い人脈と、わかりやすい解説に定評がある。



させぼ夢大学講演会

大笑と笑いで生きる明日への活力

講師／神田 紅 氏



神田 紅氏



夢大学の醍醐味

佐世保市大和町 新北 博美

講談師の神田紅さん。実際に講談を見るのは、初めてでした。明るく張りのある声で、言葉も、とてもわかりやすく、楽しい話術で、「明るく樂しく、わかりやすい」を表現されています。私は、敷居が高いものだと勝手に思っていましたが、とても親しみやすく感じました。思いかえせば、普段大きな

声を出すことがなく、久しづりの大声の発声で楽しかったです。息を吐ききらないと、吐かない・嘔い・命。息を吐ききつてしまえば、その分、新鮮な空気が多量に入つてくるため、まずは深呼吸。そこに、前向きな言葉を大声で、と思いつつ、家に帰るで、普段の言葉を口に出しています。

中村天風氏のことは、詳しく知りませんでした。積極的思考、心の健康等、よりよく生きていくうえでの大事なことを少し知りました。初めて直に講談にふれ、中村天風氏のことまで知れて、まさに、夢大学の醍醐味を感じた1日でした。

元気と笑いで、心身の健康

佐世保市南風崎町 横山 春美

大きな声を張り上げて、トーン・トン・トン

佐世保市ハウステンボス町 松井 昭夫

アルカスの大ホールが、興奮のるつぼと化した。

■神田紅氏の講演で、この暑さも吹っ飛び、元気をいただきました。心の元気が大切なこと、本當によくわかります。自分を甘やかしては駄目との言葉が、心に沁みます。

佐世保市潮見町●永田 光江

■神田紅氏の講演を聴き、とても心が明るく上昇しました。何か生徒のような気分になりました。私が大好きな中村天風先生の言葉も確認でき、積極思考の気持ちで生活していきたいと思います。

今日は、とても明るく帰ります。明日も、前に向かって生きます！

佐世保市陣の内町●井手 孝広

■「夢のひろば」の歌声とピアノ、素敵でした。

初めて講談を聴きました。受講生も参加させていただき、涙が出るほど笑いました。当日は、楽しい思い出になる誕生日となりました。

これも、させぼ夢大学に長年通っているおかげです。ありがとうございました。

佐世保市木風町●西 照美

■私は、今回のさせぼ夢大学で、初めて講談を知りました。受付で、『いざ鎌倉』の資料を渡され、何かするのだなと思いましたが、初めての講談はとても貴重な経験になりました。

声を出すとストレス発散になる、拍手をすると眠気が落ち着く。これらを実践していきたいと思います。

佐世保市小島町●高増 香里

■「過去を振り返らず、前を向いて生きていく」、「あきらめない心」が大事である。厳しい世の中であるが、とてもよい刺激になった言葉であった。

日本で数少ない伝統芸能を、今後も継承してもらいたい。

佐世保市潮見町●山田 毅

■素敵な声が、客席の後ろから！「夢のひろば」の演出、すばらしかったです。暑さがとぶような、爽やかな気持ちになりました。

また、初めて講談を聴き、元気をもらいました。会場も笑いでいっぱい。とても楽しかったです。

過去を振り返らない、明日に向かって、笑顔で日々を過ごす。これらが人生を楽しく過ごすために、大切なことから思いました。

佐世保市大宮町●田中 美禰

■配られた講談の資料を神田紅氏が張りのある声で、少しづつ読み進める。会場の私たちには、そのマネをしながら、声を出す。初めは、恥ずかしかったが、周りの声とともに、私の声も次第に大きくなる。会場が一体となつて、快い時間を過ごした。

その後、実際に神田氏の講談を聴き、何だか大きな力をもらったような晴れ晴れとした気持ちで、会場を後にしました。

佐世保市もみじが丘町●山川 芳香

声が、と思いまして、1階席後ろからの登場。粹な演出で始まり、「浜辺の歌」など、透き通るような美声を堪能した。古賀理事長は、挨拶で、戦後80年やウクライナ、ガザ地区にふれて、戦争のない、起きない世界をと強調された。最近の一部議員の「安上がりの核」などの論調は、看過し難い。

今回の講演は、神田紅さん。大いに元気をもらつた。

大声を出すことでストレス解消など、テーマの「大声と笑いで生きる明日への活力」そのものだつた。プロフィールと生の姿から感じること

は、努力家で、パワフルで、

プラス思考の多才な講談師。

それを裏付けるように、多種多様なジャンルで活躍されて

いる。同じ福岡に縁があり、

パワフルに活躍した思想家、

中村天風氏に心酔されている

訳がわかつた。

「あきらめない強い心」、

「過去を忘れる」、「心の元気」などを力説された。今後も元気と笑い、そして講談の魅力を振りまいてください。

夢のひろば

- ◆日 時／9月17日(水) 午後6時～6時20分
- ◆演 目／和太鼓演奏
- ◆出 演／和太鼓奏者 高倉 照一
- ◆出演者紹介

私こと高倉照一は、雲仙市を拠点として活動する、障がい者長崎打楽団「瑞宝太鼓」に所属しています。その中で、佐世保市在住の私が、「夢のひろば」で、和太鼓の演奏をさせていただくことになりました。

「瑞宝太鼓」は、1987年に障がい者の余暇サークルとして始まり、2001年にはプロの集団へと進化。日本全国で年間100回を超える公演活動を行いながら、8か国10回の海外公演も経験してきました。

「希望し、努力し、感謝して生きる」のテーマのもと、和太鼓の演奏を通して、夢や希望をもつことの大切さや、挑戦する勇気を発信しています。

◆ 目 录

- しまばらの子守唄（篠笛）
……あいさつ代わりにお聴きください。
 - 唄鼓
……八丈太鼓と囃子太鼓をモチーフに作調
しました。
 - KATSUGI（カツギ）
……相撲桶太鼓で打ち込みます。



8月 夢のひろば 富永珠未、江口友規子「ソプラノ独唱&ピアノ」

人生に笑顔のスペイス

これからは「常に明るく楽しく」をモットーに、生きる喜びを持ち続けたいと思いま
した。この講演会に来ていてなければ、このような感動は生まれませんでした。させば夢
大学の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

冒頭の古賀理事長の挨拶で、猛暑の話を6月から繰り返していると言われました。私も、毎日気をつけて生活し

おもしろかったです。
今後、神田紅さんの講談を
ぜひ観に行きたいと思いまし
た。このすばらしい講演を、
お友達に話しておきます。本
当にありがとうございました。

エネルギー注入！ これこそ 夢大学！

講演者の神田紅氏は、登壇するや否や、まずは講談をやつてみましよう!と言った。『鉢の木』についての解説と、その1場面『いざ鎌倉』の台本で、実際に語りを体験するというのだ。指導法も独特だ。事前に、『鉢の木よりいざ鎌倉』の台本が用意されたいた。講談には、「メリ、ハリ、ツツコミ、謔い調子」があること、発声する際のポイント等の指導があった。「●の所は声を張り上げ、突っ込むところ。ドレミで語ると、ミラミミミミミララミミラ・・」と、強弱をつけた独特のリズムで表現。会場が、笑いの渦に包まれた。「笑っている場合ではないですよ!」と我々を一気に講談の世界に引きずり込んだ。手拍

講談の一席は、「春田局家光養育」。張り扇を打つリズムと、流れるような語り口が紡ぎ出す話芸の世界を堪能した。「大きな声を出すことは元気の源。何時間話しても、声は枯れない」というとおり、張りがあり、明るく艶のある声、テンポのいい語り口に心を打たれる。

恥ずかしながら、私は、講談に全く興味がありませんでした。失礼ながら、神田紅さんのことも、よく知りませんでした。

しかし、きつかけというのはおもしろいですね。人と人との結びつきから、神田紅さんの大ファンになるなんて。

そもそも私は、大谷翔平選手の大ファンで、アメリカまで試合観戦に行つたことがあります。その大谷選手の愛読書が、『運命を拓く・天風瞑想録』。明治から昭和にかけての哲学者・実業家の中村天風さん著の本です。大谷選手がメジャーリーグに行く前に熟読し

その中村天風さんと、神田紅さんが、この講演会で結びついたのです。福岡修猷館高校の先輩である中村天風さんの武勇伝を講談に創作された神田紅さん。今までの点が、線でつながりました。決してくじけない、弱音を吐かない、前向きな思考の3人。一躍、神田紅さんの大ファンになってしまいました。

これからは「常に明るく楽しく」をモットーに、生きる喜びを持ち続けたいと思いました。この講演会に来ていいなければ、このような感動は生まれませんでした。させば夢

子を交え、リズムを取りながら、必死に食らはつく。最終

「積極思考」で、人生明るく
楽しく！

深く影響を受けたという本です。

ているので、「そうだなー」と
につこりうなずいてしまいま
した。

月24日(水) (必着)
ば夢大学事務局まで
ているので、「そう
につこりうなずい」
した。

だなー」と
てしまいま

